

報道機関各位

日本貿易振興機構（ジェトロ）
福島貿易情報センター株式会社五十嵐製麺（喜多方市）のマレーシア進出について

日頃、大変お世話になっております。

この度、ジェトロの支援により以下のとおり 2016年1月、喜多方市の製麺会社は、進出計画からおよそ2年に亘る調整・交渉の結果、無事に現地法人設立、現地パートナーとの契約締結に至ることができました。

つきましては、同社について取材をいただけますようお願い申し上げます。

【 要 旨 】

- 株式会社五十嵐製麺（本社：喜多方市 代表取締役：五十嵐隆氏）は 2015年10月30日に、同社現地法人、Igarashi Seimen (M) Sdn. Bhd. をマレーシアのクアラルumpur郊外のセランゴール州にて設立登記を行なった。さらに 2016年1月1日、現地におけるパートナー企業である Dragon-i Restaurant Sdn. Bhd.（本社：マレーシアセランゴール州ペタリンジャヤ CEO: Datuk Henry Yip 氏）に対する製麺技術の指導契約を締結した。
- Dragon-i Restaurant Sdn. Bhd.（2004年設立）は、ペナン、クアラルumpur、ジョホールバル、コタキナバルといった主要都市を中心に、マレーシア全土に26店舗を構える高級中華料理レストランチェーンである。味を追及するため中国からシェフを何人も招聘する人気のレストランである。
- Dragon-i の代表的な人気メニューは小籠包と拉面だが、五十嵐製麺はこの麺の製造を同社のセントラルキッチンにおいて行なう。これに伴い、五十嵐製麺は、日本製の製麺機械の斡旋やメンテナンス、製麺技術の指導・監督等をパッケージ化し同社に提供して行くこととなった。
- 同社は、ジェトロ福島を通じて、2014年度JETRO「中堅・中小・小規模事業者新興国進出支援専門家派遣事業」、さらに2015年度JETRO「海外展開のための専門家活用助成事業」に応募し採択された。この結果、担当専門家からの指導を受けてマレーシアへの進出支援を実現することとなった。
- 一方、同社は既に香港、イギリス等への輸出実績を有しており、今回のマレーシア進出は現地生産の形であるが、将来的にTPP協定参加のマレーシアを足がかりにアジア圏向けの輸出拡大も見込んでいる。

以下、担当した専門家（合同会社コネクシ 代表 唐澤哲也氏）のコメントです。

五十嵐製麺様は国内での幅広い生産・販売実績、一部輸出実績を持っておりましたが、海外現地での展開に関しては初めての試みでした。現地のパートナーとの法人設立に関する条件交渉（合弁で進めるか、独資で進めるか）や、当初関係していた現地での利害関係者の整理をはじめ難問が山積しておりました。また、華人・華僑とのビジネスの難しさも感じつつも、お互いに信頼し合えるパートナーになるべく、マレーシア、日本で何度も面談を繰り返し、彼ら、タフネゴシエーター達との交渉を乗り切って

参りました。

現地パートナーは今後、麺の製造技術と生産性の向上を継続的に目指し、五十嵐製麺様の指導を受けて行く予定です。ですが、それだけに留まらず、小売用のパッケージ製品（ラーメン等）の開発・製造の企画が始まっております。五十嵐製麺様は既に小売用にラーメンを製造・販売している実績も十分ございますので、今後はマレーシアの小売店での幅広い展開へのビジネス協力を求められています。

こういった、今後の新しいビジネスに関しても、再び彼らとの難しい条件交渉などが待ち構えていると想定されますが、スピード感を持って交渉・契約の締結への支援を進めて行けられればと思っております。



別添： 関連写真